

## 施設見学・施設事業者\_担当者へのヒアリング

遺体安置施設については、運用のなされ方などから捉えた場合、「遺体の安置設備と共に、葬儀、葬送が可能な空間も備えている」もの、あるいは「遺体の安置することのみとしている」ものに大別される。ただ、後者の場合でも葬「儀」には対応出来なくとも遺族の面会程度には対応している場合もある。殆どの地方公共団体では「遺体安置施設」について、許可や届出の規制の対象としていないことから、その抽出にあたっては、メディア等で取り上げられたものなから、主な施設を抽出したものである。見学を行ったのは以下の通り（見学順に列挙）。

運営主体：あなたを忘れない 株式会社

施設名：想送庵カノン

施設所在地：東京都葛飾区立石 8 丁目 41 番 8 号

見学：2022 年 5 月 17 日

運営主体：株式会社 ハース・ジャパン

施設名：東京営業所（蒲田安置所）

施設所在地：東京都大田区新蒲田 1 丁目 14 番 1 号

見学：2022 年 5 月 20 日

運営主体：株式会社 吉澤企画

施設名：ステーション町田

施設所在地：東京都町田市成瀬 6 丁目 13 番 40 番

見学：2022 年 5 月 20 日

運営主体：株式会社 ニチリョク

施設名：ラステル新横浜

施設所在地：神奈川県横浜市港北区新横浜 2 丁目 15 番 19 号

見学：2022 年 5 月 23 日

見学した施設を類型化すると、【「あなたを忘れない 株式会社」の「想送庵カノン」】と【「株式会社 ニチリョク」の「ラステル新横浜」】は、施設では遺体の安置設備と共に、葬儀、葬送が可能な空間も備えている。【「株式会社 ハース・ジャパン」の「東京営業所（蒲田安置所）」】と【「株式会社 吉澤企画」の「ステーション町田」】は、基本、遺体の安置することのみとしている（ただ、面会等の対応は可能）。

ただ、今般の新型コロナウイルス感染による死亡者の受入れについては、【「あなたを忘れない 株式会社」の「想送庵カノン」】と【「株式会社 吉澤企画」の「ステーション町田」】で受入れている。

但し、【「株式会社 吉澤企画」の「ステーション町田」】では、施設での受入れというより、今般の新型コロナウイルス感染による死亡者の受入れにも対応している遺体安置施設等を紹介している。（株）吉澤企画ではご遺体の搬送にも対応である。

受入れ事態にも対応しているのは、【「あなたを忘れない 株式会社」の「想送庵カノン」】。当該施設における新型コロナウイルス感染症死のご遺体の受け入れについて、以下の通り。

病院にて納体袋におさめ、棺に納棺したうえで移送されることが絶対条件。到着後、スタッフはグローブ、エプロン、マスク（いずれもディスポーザブル）にて棺をアルコールで拭きあげる。

コロナ感染のご遺体は安置室上部（冷蔵上部）にて安置する（同じ室内でも温度が低い）。コロナ感染で亡くなった方の面会は、そもそも、多くはないのだが、友引とその前後に指定している（⇒他の面会者と交わらないように）。死後72時間を経過しないと、面会は認めていない（面会希望の場合には72時間かけてウイルスの不活性化につとめる。）。正式な研究機関によるエビデンスはないが、次亜塩酸ナトリウムを利用した環境下において一定期間の経過の後には、ウイルスは不活性化すると考えている。

都内医療機関のコロナ死専門ご遺体安置施設としての稼働時は、今日よりコロナへの警戒心が強く、受入の戸口や動線も分けもしていたが、現在はそこまでしていない。経験が蓄積され、より効率的かつ合理的な対応を整理している。事実、従業員お客様を問わず、カノンではコロナ感染も発生していない。

火葬場によっては、処置を終えているご遺体であるのに、「納体袋を5重に」とか「ラップでくるめ」とか「棺を目張りして欲しい」など、ある種過剰なことを求められたりする。また、そこまでの条件を付けて、なお、火葬場の職員が防護服を着けているのは疑問。納体袋は破れないのに、（火葬場では）その懸念ばかり考えられているのは杞憂ではないか。問題がないこと、適切な処置については、火葬場を稼働させている現場と、火葬場の管理・運営している行政窓口との間で温度差があるように思う。

むしろ重装備にすることによるリスクが多いと思う（⇒着脱の際の手間、リスク。ご遺体の「処置」の最前線で作業をしている私たちは、エプロンとグローブで対応している）。

次ページより、見学順に「ヒアリング内容（要旨）」「施設写真（見学时撮影）」「施設にかかわるパンフレット」をまとめ、施設概要についてまとめてある。

運営主体：あなたを忘れない 株式会社

施設名：想送庵カノン

施設所在地：東京都葛飾区立石 8 丁目 41 番 8 号

見学：2022 年 5 月 17 日

### 新型コロナウイルス感染症死のご遺体の受け入れについて

病院にて納体袋におさめ、棺に納棺したうえで移送されることが絶対条件。到着後、スタッフはグローブ、エプロン、マスク（いずれもディスポーザブル）にて棺をアルコールで拭きあげる。

コロナ感染のご遺体は安置室上部（冷蔵上部）にて安置する（同じ室内でも温度が低い）。コロナ感染で亡くなった方の面会は、そもそも、多くはないのだが、友引とその前後に指定している（⇒他の面会者と交わらないように）。死後 72 時間を経過しないと、面会は認めていない（面会希望の場合には 72 時間かけてウイルスの不活性化につとめる。）。正式な研究機関によるエビデンスはないが、次亜塩酸ナトリウムを利用した環境下において一定期間の経過の後には、ウイルスは不活性化すると考えている。

都内医療機関のコロナ死専門ご遺体安置施設としての稼働時は、今日よりコロナへの警戒心が強く、受入の戸口や動線も分けもしていたが、現在はそこまでしていない。経験が蓄積され、より効率的かつ合理的な対応を整理している。事実、従業員お客様を問わず、カノンではコロナ感染も発生していない。

火葬場によっては、処置を終えているご遺体であるのに、「納体袋を 5 重に」とか「ラップでくるめ」とか「棺を目張りして欲しい」など、ある種過剰なことを求められたりする。また、そこまでの条件を付けて、なお、火葬場の職員が防護服を着けているのは疑問。納体袋は破れないのに、（火葬場では）その懸念ばかり考えられているのは杞憂ではないか。問題がないこと、適切な処置については、火葬場を稼働させている現場と、火葬場の管理・運営している行政窓口との間で温度差があるように思う。

むしろ重装備にすることによるリスクが多いと思う（⇒着脱の際の手間、リスク。ご遺体の「処置」の最前線で作業をしている私たちは、エプロンとグローブで対応している）。

### インタビュー内容

#### ① 遺体の管理について

遺族から依頼を受けた葬儀社が、まずは帰宅先の確認を行い「自宅に安置ができない」という段階で、葬儀社から安置依頼の連絡（電話にて）がくる。時には、葬儀社未定のまま安置場所を探している遺族から直接連絡が入る。カノンでは、遺体保全及び管理は冷却管理に尽きると考えている。受入れた場合、ドライアイスで腹部を速やかに冷却（消化酵素の働きを抑制し細菌の繁殖を防ぐ）。

亡くなる場所は病院や介護施設が多く、臨終から 4～5 時間後には搬送されてくる。冷却管理は速やかに行えるが、自宅死では、在宅医と未契約の場合、警察案件になることがあり、冷却処置が遅れるため特に配慮が必要。ご遺体を受入れると基本トリートメントルームにある保冷库（4℃以下）にて預かる。遺体の安置室の入室は指紋認証。一般の利用者（遺体の安置を委託した遺族）は出入りできない。

カノンに遺体が滞在中に遺体のケア（メイク、納棺等）を葬儀社スタッフか納棺師が行うが、消毒・防臭が必要な案件については受入の段階で可能な限り行う。全ての受入れ時にはスタッフは使い捨てグローブを使用している。感染遺体の場合には、棺表面を次亜塩素酸ナトリウム・アルコールなどの消毒薬で

消毒をし、保冷庫の棚に納めている。納棺師やその後の面会、弔問客への感染予防の為、臭い、体液や血液の流出には特に注意して対処する。新型コロナウイルスだけが注意すべき感染症ではない。エイズ・肝炎・結核菌・疥癬・バクテリアなど、ご遺体からの感染は事例の報告はないだけで、起こる可能性がある。

## ② 安置に関して現在感じている問題点

病院や施設から葬祭業へ遺体が引渡される時に、死亡原因が不明のまま引き渡されている。搬送時には遺体の情報が皆無で、死亡診断書を確認できないことから、ハイリスク遺体であるか不明。このように、遺体の引渡ルールが不在なのが大きな問題だと考えている。

エンゼルケア（医療機関で行われる死後処置）の状態も様々。中には、中心静脈栄養カテーテルのチューブの処置が不十分で、搬送時に出血しているケースもある。移送される前、清拭を含むエンゼルケアをうけてくる故人も多いが、清拭後に十分な保湿が行われていないことの方が多く、遺体保全の為にどのような処置が必要か考えられていないと感じる。保湿を充分に行わず、パウダーファンデーションが塗られるため、乾燥が進むケースもある。目が開いてしまう、唇の形が変形するなど、時間と共に保全上の問題が起きることもある。また、遺体からの感染防止という視点からも、切開あと、抜針痕、ドレーン抜去痕などは丁寧に止血し、何より医療機関からは清潔な状態で葬儀社に引き渡して欲しい。病院・介護施設と葬祭業者の間で、ご遺体のケアが統一されていない。この点広く周知、広報してほしい。

警察案件の場合、ハイリスク遺体は必然的に多くなる。死因が不明の中、裸で納体シートに包まれた状態で引き渡される。血液・体液・泥などの汚れがひどい場合、スペースや作業時間の確保が難しい場合など、状況によっては警察署で浴衣すら着せられない場合などもあり、裸で納体シートにくるまれた形で受け入れることもよくある。そうしたご遺体は様々な作業が必要とされる。ご遺体のすべてが五体満足とは限らず、白骨化していたり腐乱があったり虫害など、ご遺体によりさまざまである。病院や介護施設などから引き取る一般のご遺体とは異なり、対面出来る状態にするには時間や技術も必要になる。

腐敗臭については注意している。臭いがする≡危ない状況、危険な予兆と捉え、適切な処置を急ぐ。

処置のためトリートメントルーム（処置室）は作業の安全性の為、十分な広さを確保している。遺体からの感染を防ぎ、スタッフ・遺族の安全を守るために、次亜塩素酸ナトリウム、アルコール、次亜塩素酸水、電解水などの活用で衛生管理をコロナ以前から徹底して行ってきた。そうした経験の蓄積があるので、コロナで亡くなられた方の対応にも充分に対応ができた。

## ③ 施設の特徴に関して

カノンの最大の特徴は、故人と同室で過ごせるということ。到着時から他施設とは大きく異なる。故人と一緒に到着する遺族はすぐに面会し、そのまま故人と同室で葬儀社と打ち合わせすることができる。他の施設では故人を傍らに葬儀の打ち合わせができることはあまりない。

安置状況も他施設とは異なり、1階トリートメントルームでの冷蔵安置もしくは2階・4階での個室安置が選べる。ドライアイスはどちらの場合も利用する。式場内および個室安置室では、日中の付き添いだけでなく、夜間も含め24時間一緒に滞在することもできる。付き添いで「泊まる」場合には、貸布団かリースの折りたたみベッドの利用が可能で、自宅で過ごすように付き添える。

冷蔵安置を利用する場合には、プライバシーが守られた個室面会室を無料で利用することができる。現

在は感染予防のため全て予約制。1回30分程度、6名迄、1日2回までとしているが、なかなか規則通りにはいかず、予約なしで突然訪れてきたり、10名ほどの大勢で来られたり、1日に何度も来られたりする。しかしこれは遺族感情としては当然のことと思うので、面会室に限らず人数が多くなる場合などは、空いている一回り大きな部屋に案内するなど、遺族心情にできるかぎり配慮している。

遺族が外国人の場合は、日本語が通じない場合もあり、意思の疎通が難しい。各々のコミュニティの方が来るので、30名ほど、ということもあった。余談だが、トルコ、韓国、東南アジアの一部では、エンバーミングをせずとも、国外に送り出せるが、アメリカはエンバーミングをしていなくては受け入れない。

#### ④ 施設のキャパシティーに関して

現在の所キャパシティー的には、充分対応ができています。しかしながら、繁忙期である冬場だけではなく、死者数が多くない夏場にも、冬場ほどではないもののピークがあり、暑さから自宅安置が難しいこともあり需要は高い。また、亡くなって日をおかず火葬できればよいが、火葬予約が4日以上先なることもよく起きてくる。当然その分安置する日数は増えるので、安置のべ件数としては増加する。また、希望式場と菩提寺の予定いかんでは、安置が10日を超えることもある。

カノンに滞在する故人は、病院や施設からだけ運び込まれるということではなく、在宅で看取られた故人も運び込まれることがある。在宅で看取っているということは自宅安置も可能な状況にあるはずだが、安置施設を利用するには、いくつかの理由がある。介護ベッドの返却を急ぐ場合、室温が低温に保てない場合、家族が看取りで疲労している場合、葬儀社に毎日来てほしくない場合、居住空間が狭いことなどが理由になっている。また、介護施設に入所する際、自宅が長期間空き家となっていてライフラインが止められている場合や自宅を売却している場合など、死後帰る場所がない場合には、安置施設の利用は必須となる。特に死亡者数が多い東京など都市部においては、超高齢化社会を迎えて、数年後には、死後帰宅難民化する恐れもある。求められているのは、介護施設が老後を過ごす自宅だとすると、安置施設は冷蔵倉庫ではなく、死後の自宅のような場所なのだと考える。

#### ⑤ カノンの社会的な役割について

想送庵カノンに小規模の個室が多いのは、死後の自宅としての役割を果たしたいため。傍に付き添いたい人が付き添える場所が必要と考える。わけても、コロナ禍で、「会えない時間」が長かった家族が、最後の時を共にしたいであろう。事実、通夜の夜に泊まりの人数が10名を超えることはざらにある。家族葬が広まり、小さめの式場が必要になり、更にコロナ禍の影響で、入院・入所していた故人に生前充分に会えなかった家族が、気兼ねなく共に最後の時を過ごせることが「カノン」のコンセプトである。

昭和までは、遺体は自宅に安置できた故に、葬儀社は遺体を安置する期間の過ごし方について家族に任せ、安置期間の過ごし方に心を配る必要がなかった。ドライアイスの追加をしながら、メインイベントである葬儀の準備だけを考えればよかった。葬儀社にとっては、あくまで『葬儀』という『儀式』の2時間（通夜・葬儀・告別式）のことを考えればよかった。しかし、施設に長期間入所して看取られるケースでは、故人と十分な時間を共にできていない為、安置期間は家族にとって大切な時間になる。

また、コロナ禍故の問題もある。施設・病院での面会は制限され、入所している親や闘病している家族に臨終間近であっても自由に寄り添うことが許されないという問題である。

臨終も立会えず、安置期間も会えず、火葬の当日に1時間の儀式をこなす時短葬儀で、従来の儀式中心の形骸化した弔いを漫然と踏襲してしまうと、故人の死を受容し難くなっているのではないかと感じる。

安置施設が整っていないのは、都市部では大きな問題。現状の一般葬儀場や火葬場の死体安置室では家族が故人と過ごせる空間になっているだろうか。繰り返しになるが、死体安置室から引出されて葬儀が行われるが、その葬儀が本来の意味で故人と遺族の別れの場になっているか、という思いが『想送庵カノン』の出発点になっている。遺族は故人に単に『会いたい』、ではなく、『寄り添いたい』と考えていると思う。遺族は故人を『見たい』のではなく、『会いたい』≒『寄り添いたい』ではないのか。

事実、現状の葬儀場や火葬場の死体安置室を利用した遺族・家族が、無念な思いを抱えているということも珍しいことではない。いわゆる『グリーフ』という、喪失からの回復が難しい状況も生まれている。

これから団塊の世代が亡くなってゆく『多死時代』を迎える。遺体を安置するコトの本質と必要性について、何処まで行政などは考えているのか。終わりの見えない感染症、災害による大量死などを念頭に置いて、社会的な『リスクマネジメント』としての遺体安置を真剣に考える時が来ていると思う。

葬儀社が、もしも『儀式』だけを重視するのではなく、ご逝去から火葬までを弔い期間として考え、安置時間は故人に遺族が付き添える家族の弔いの時間として大切にしたい時、『共に過ごせる』空間の提供は付加価値として評価されることになるのではないかと考えている。そして、弔うということに真剣に向き合った遺族の若い世代には、命や人生といったことに向き合う最高の教育の場となるはずだ。

#### 取引葬儀社に関して

カノンをご利用頂いている葬儀社約60社。当初月に2~30件程度だったが、安置だけの利用も入れると、月に約200件近くになってきた。一年にすると2,000件ぐらいになってきている。

それは一重に評判というか、時間軸で考えたときの弔いのプロセスを重要視し、故人と遺族を『会わせる』空間の提供と、遺体管理（故人の尊厳が保たれるということ。生前の面影がある遺体の状況に遺族が慰められるということを理解しているということ。）の適切な関与への信頼によるものだと考えている。

#### カノンでの受け入れ時間と年間稼働日数、出棺先（ご遺体の出てゆく先）と平均滞在日数

365日。休業日はなし。24時間受け入れられる体制で臨んでいる。従業員はシフトを組んで、休みを対応している。専属は3名。パート4名。火葬場に搬送する場合、葬儀場に搬送する場合に分れる。平均すると3泊程度の利用が多い。短ければ1泊。

#### トリートメントルーム（処置室・冷蔵安置室前室）についての衛生上の配慮に関して

床の素材は食品工場などで使われている防水素材（抗菌性有り）と同じ素材を採用。床の清掃・ウオッシャーは月に2回。備品などの清掃もこまめに行っている。それと、臭気には最速で対応している。臭気がしたら、衛生上の支障が生じていると考え、その原因の解消に努めている。

保冷库の温度は2℃設定（常に4℃以下になるように）が基準。前室は20℃以下になるよう、空調を利用し、24時間稼働。作業にあたる職員の装具は『ディスポーザブルグローブ（手袋）』『エプロン』『マスク』である。が、一応、防護服なども用意。特に『グローブ（手袋）』は衛生上問題の多いので、頻発に使い捨てている。感染予防の資材は災害時などの緊急時のことも想定して、段ボール買いして十分な

予備は確保している。消毒液も3種類を状況によって使い分け、業務用の缶で用意している。コロナのみならず、C型肝炎なども懸念される。これまで感染例（トラブル）はない。衛生管理をするには、それに見合った人員・コストが求められるのだが、そうした「コスト」を葬儀代金は考慮されていない。遺体管理費用は最優先させられるべき費用であるにもかかわらず、代金に反映することが出来ず、安価な葬儀が増えて葬儀社はかなり疲弊している。

### アフターコロナの葬儀

葬儀はコロナ以前から、シンプルな形態（≡費用の掛からない形態）の「家族葬」という形が広まっていた。が、それでも従前からの葬儀のあり方との兼ね合いで、躊躇する空気もあった。しかし、コロナにより、会葬者を招かない親族のみの葬儀というのが容認されるきっかけになっていると思う。ただ、高齢者が増えると、会社などとの関係性は希薄になるので、家族だけの葬儀になる現実もあると思う。しかしながら、直葬（病院などから直接、火葬場にて火葬する場合）では、故人の親族から、「何故、葬儀をしなかった」と遺族が責められることもあるし、時短葬儀に後悔するケースも少なくない。対応に苦慮した遺族が相談もあるが、カノンからの提案は葬儀のやり直し。四十九日を単なる法要ではなく、葬儀の様にすることで、ご遺族の納得感が高まり、安堵する（カノンは単なる施設の提供をしているのではなく、グリーフケアの担い手と考える）、家族葬でも、弔いに求められる意義は変わらないであろう。

### コロナ感染死の場合に関して

火葬場の受け入れ枠が決まっているため、安置期間は2週間を超えることもあった。火葬場の受入れ条件でも、待機日数は異なる。たとえば、遺族の立合いを認める火葬場は、待機日数が長くなる傾向にあった。遺族の立合いを認める火葬場と認めない火葬場が都内の中で存在しているのは違和感を覚える。遺族がそうした情報を有しているという訳ではないので、あくまでも葬儀社主導でコロナ遺体の火葬に対応している火葬場が案内される。遺族が故人に会えるか会えないかは葬儀社の対応にかかっている訳だ。現に、何とかして故人に会いたい遺族の中には、依頼した葬儀社の会えないという対応に疑問を感じ、自らネットから情報を探し出し、直接カノンに連絡をしてくることもある。

情報に辿り着けず、会えずに火葬せざるを得なかった遺族の無念は、いかばかりか。

しかしながら火葬場へ向かう途中の路上で、遺族の庭先で対面を果たした家族も多くいた。一部の葬儀社が、弔いをお手伝いする者としての矜持をかけて、家族の想いに誠心誠意対応していたためだ。このような火葬場の状況を生み出してしまった指導内容に疑問を感じる。

また、火葬場が予約できても、コロナ遺体の霊柩車の手配に苦慮した場面がたびたび起きた。これは、火葬時間が殆ど同時刻で、尚且つコロナ遺体の対応ができる車両・ドライバーに制限があったためである。

さらに、対応葬儀社も限られていたので、その時の葬儀社の状況、事情によっても様々左右された。

もちろん、感染遺体の安置場所も限られていた。中には冷蔵安置でなくドライアイスのみで2週間以上の安置を行っていた施設もあり遺体の状態は決して良いわけではなかった。

コロナで亡くなった方の葬儀についても、カノンでは2020年の秋から行ってきた。安置から72時間以上経過してからというルールを設けているが施行できる。消毒を含めてご遺体ケアを行えば、メイクも可能。もちろん納体袋を開けて花入れ・お別れすることもできる。付き添い安置もできる。

特にコロナで亡くなった方の場合、生前入院していた頃は隔離されていたことから、付き添いのニーズは高い。付き添い安置をされた遺族の喜びのお声は大きく、スタッフ一同の励みになっている。

### 今後の施設の展開について

弊社が開設するだけでなく、誰しものが利用できる公共性が高い（所有法人のみが利用できる施設ではなく）カノンのような滞在型の安置施設と小さなタイプの葬儀式場は都内（23区）で6箇所が必要と考えている。ひとつの施設で半径10kmをカバーすれば、安置への意識、弔いへの意識も変化すると思う。また、葬祭業が超過投資にならずに多死時代を乗り越えることが出来るのは、来たる死なない時代に負の遺産を（葬儀式場の乱立）作らない為にも良い方法だと思う。

また、災害時には直ぐに遺体安置施設にもなる。災害時遺体安置施設の設置を各地方自治体は求められているものの、示されている自治体は半数以下。いざ、どうしてもとなれば、何とか設置出来るのかも示れない。しかし、遺体安置の業務出来る人的リソースがなければ、運用面には不安が残る。

東京で災害が起きたとき、大量の死者が出たときには、安置場所の用意が充分にできるのか、遺体への対応ができるのか、納体袋、ディスプレイブルグローブ、ガウンの備蓄はあるのか。不安である。

カノンは葛飾区からの申し入れによる災害協定を交わしているの、災害時には全館が災害でお亡くなりになった葛飾区民の遺体安置施設として機能する予定なので、訓練などにも参加している。

他の区などでは、暫定的に既存の体育館が想定されているが、故人と遺族を『会わせる』空間として適切なかは疑問。また、そうした使われ方をした『体育館』は取り壊さざるを得ない（東日本大震災にみられたケース）。そもそも、体育館は生きている人の為の避難場所にすべきと思う。そういう意味でもカノンのような施設の整備は求められるのではないかと。しかし、多くの遺体安置施設や葬儀式場は周辺理解が得られないことが非常に多く、必要であると誰もが認識しながら新設の実現はしにくい。

カノンは地域に溶け込めるように、地域住民の（葬儀以外の）利用を受け入れている。地域コミュニティの会場としても（可能な範囲で）解放している。そうした工夫が施設整備のポイントになる」

### カノンの存在意義について

故人・ご遺体に向き合う空間の提供とその家族の時間を見守ること

ご遺体となった冷たい体の故人にキッチンと向き合うことは非常に大事なことを考えている。向き合わずに火葬した場合、特に若い世代は『あぁ、死んだらこう扱われるのか、どんなに真剣に生きても最後にこのように扱われて、弔われるのではなく肉体の処理をされるのか』と虚しさを感じ『命』を軽んじてしまうことに繋がることになるのではないかと。

『故人と遺族を『会わせる』空間』を提供し、その時間を見守るということは、遺体に直接触れる機会の提供であり、死が不可逆的なことであるという認識を持つに至り、自身や他人の命に思いを馳せさせ、肉体のはかなさに対する想像性を身に付けさせることに繋がると考えている。（ゲーム・アニメーションの中で、転生したりするテーマが溢れているが、死は確実に肉体を消滅させ、死んだ人との再会は叶わないということに実感を持つことが出来る＝死生観の形成に役立つ＝命について考えることが出来る）

こうした『想い』は関係者が皆、共有している想いでもある。



## 想送庵カノンの施設概要

### 施設の利用内容

利用の仕方は5パターンに分かれる

- ① 安置のみを目的とした利用
- ② 式場の使用を目的とした利用
- ③ 安置と式場の使用を目的とした利用
- ④ 納棺（湯灌含む）を目的とした利用
- ⑤ 法要会場としての利用

### 利用経路

- ① 病院からの搬送
- ② 高齢者介護施設からの搬送
- ③ 自宅からの搬送
- ④ 警察（大塚医務院・医科大学法医学教室を含む）からの搬送

### 取扱い件数

2019年 年間 400 件程度

2020年 年間 600 件程度（新型コロナウイルス感染遺体受け入れの影響を受けた）

2021年 年間 1000 件程度

2022年 年間 2000 件程度になる予測（1月～10月の利用平均 150 件/月）

### 安置受け入れの条件

- ① 通常遺体－安置受け入れの条件は無い。未納棺の受け入れが基本。棺の種類・大きさ・形に制限はない。
- ② 損傷遺体・腐乱遺体・感染遺体－ボディパウチ・納体袋を利用。納棺済み、又は到着時の納棺が条件。  
腐乱遺体など、腐敗臭が強い場合には、除臭が条件。  
蛆虫が多い場合、可能な限り取除き、殺虫剤を使用、ドライアイス  
を多めに入れ、棺の蓋をガムテープ等でマスキングする場合も。

### 遺体安置の管理基準

- ① 安置用冷蔵庫内の設定温度 2℃（常時 4℃以下）
- ② 冷蔵庫前室の室温 20℃以下
- ③ 安置装置内・室内等の清掃及び消毒には、次亜塩素酸ナトリウム・消毒用アルコール・電解水・を使用し、随時行っている。
- ④ 通常遺体でも、遺体に触れる可能性がある場合、ユニバーサルプレコーションを基準として対応。
- ⑤ 作業終了時には、衛生的な手洗いを行う
- ⑥ ハイリスク遺体（体液の流出が目視で確認できる場合や感染遺体）の取扱いには、ディスポーザブル  
エプロン・ガウンを着用。
- ⑦ 遺体の取り違い対策（ア）受け入れ時に必ず故人名・取扱い葬儀社・安置日時を記載。安置用トレー  
もしくは柩にガムテープで貼る。  
（イ）出棺時には安置台帳と確認のうえ引き渡す。  
（ウ）トリートメントルームの出入りには、スタッフが立ち会う。ドアの開錠  
は指紋認証。
- ⑧ 面会の制限（ア）感染予防の為、予約制  
（イ）1故人につき1日2回/1回30分程度/6名程度



1階。面会室(パブリックスペース)。受付。面会室もそうだが、その他にもエレベーターホールや喫煙室などにも、ソファを置いて、遺族が個々に思いをはせる空間の確保には留意している。アルコール消毒を導入しているが、適正に利用してもらえず苦勞している。



1階。上写真の左奥。遺体の安置室。部屋の出入りは指紋認証。

一般の利用者(遺体の安置を委託した遺族)は出入りできない。安置用冷蔵庫内の設定温度 $2^{\circ}\text{C}$ (常時 $4^{\circ}\text{C}$ 以下)。

コロナのご遺体は安置室上部・冷蔵上部にて安置している(同じ室内でも温度が低い)。コロナで亡くなった故人との面会は、そもそも、多くはないが、友引とその前後に指定させていただいている(⇒他の面会者と交わらないように)。

死後72時間を経過しないと、面会は認めていない(死後72時間を経過すると故人のコロナも死滅する、という目安)。



1階。トリートメントルーム（いわゆる『処置室』）。安置室同様、指紋認証。滞在中に遺体のケア（メイク、納棺など）を葬儀社スタッフか、納棺師が行うが、消毒・防臭が必要な案件は受入の段階で可能な限り行う。全ての受入れ時にはスタッフは使い捨てグローブを使用。感染遺体の場合、棺表面を次亜塩素酸ナトリウム・アルコールなどで消毒し、保冷庫の棚に納めている。



納棺師やその後の面会、弔問客への感染予防の為、臭い、体液や血液の流出については特に気をつけて丁寧に対処する。新型コロナウイルスだけが配慮の必要な感染症なのではない。エイズウイルス・肝炎ウイルス・結核菌・疥癬・バクテリアなど、ご遺体からの感染は表立っていないだけで、起こる可能性があるものと考えている。



安置装置内・室内等の清掃及び消毒には、次亜塩素酸ナトリウム・消毒用アルコール・電解水を使用し、随時行っている。

死後72時間を経過しないと、面会は認めていない（面会希望の場合には72時間かけてウイルスの不活性化につとめる。）正式な研究機関によるエビデンスはないが、次亜塩素酸ナトリウムを利用した環境下において一定期間の経過の後には、ウイルスは不活性化すると考えている。



2階・4階での個室安置が選べる。ドライアイスはこちらの場合も利用する。式場内および個室安置室では、日中の付き添いだけでなく、夜間も含め24時間一緒に滞在することもできる。



大きなモノ（60㎡）。  
「ジュニアスイート」「デラックスルーム」「スタジオ」。



付き添いで「泊まる」場合には、貸布団かリースの折りたたみベッドの利用が可能で、自宅で過ごすように付き添える。



4階。「カノンルーム」。全体のコンセプトとしては、故人と遺族が寄り添える空間の提供を目指している」150㎡。1部屋。





想送魔力ノジ

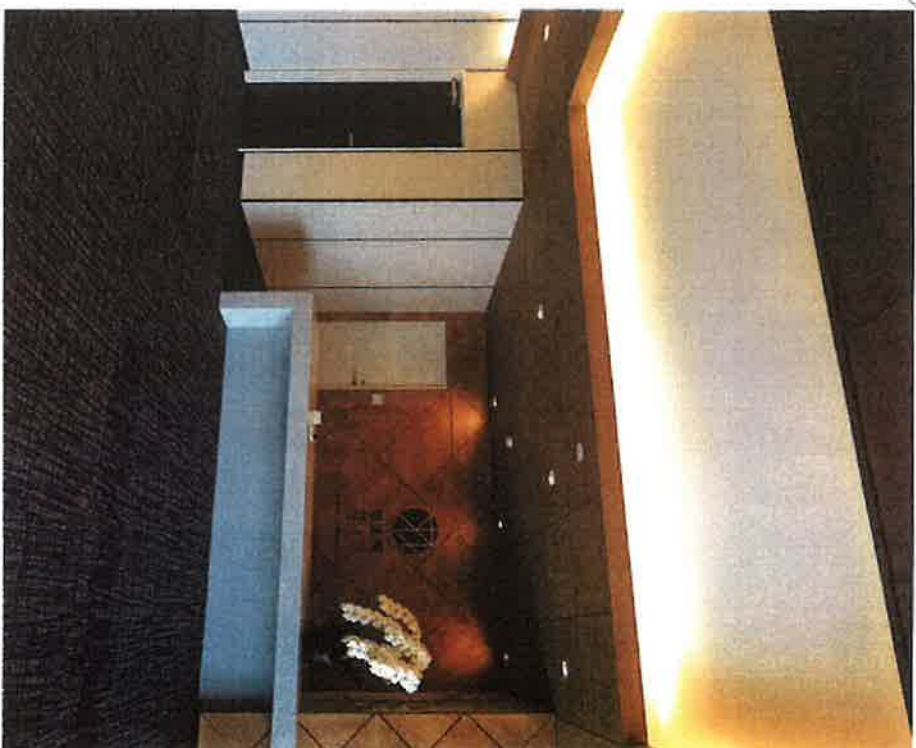
〒124-0012 東京都葛飾区立石8丁目41-8  
TEL. 03-5875-7381 FAX. 03-5875-7382  
<https://tokyo-kanon.com>



0120-717-372



想送魔力ノジ施設のご案内



想送魔力ノジ

# カンパルーム

個室空間 舞臺 特別料金 法要

料金(税別)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
・260,000円(税込286,000円)/15:00~翌日14:00まで ・350,000円(税込385,000円)/4階貴賓ホール専用ホールまで	150㎡ 約97畳	40	可

カンパルームは150㎡の広大な広さのスイートルームです。  
フロアを閉めると、左側は40席の式場スペース、右側には36名が一席にお座敷ができるダイニングスペースと、カクチソファが揃ったと配置されたリビングスペースが目の前に広がります。室内はカーテンで統一され、モダンで落ち着いた雰囲気です。40名様程度のお身内様はもちろんのこと、4席を貸し切りして100名様程度の宴會にもご利用いただけます。1階アネックスに数日で滞在の後に、送迎・告別式を執り行っていたいただけます。  
1階の知客では、通夜の夜に一晚お付き添いいただくこともできますので、ぜひ最後の一夜をご一緒にお過ごしいただきたい。



● 想送庵 カノジ

# ジュニアスイート

個室空間 舞臺 特別料金 法要

料金(税別)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
・140,000円(税込154,000円)/15:00~翌日14:00まで	60㎡ 約39畳	24	可

60㎡のジュニアスイートルームは、ブラックと白を基調にした優しい雰囲気のお部屋です。  
リビングコーナーの真っ白なカクチソファでは、ご家族がご自宅のリビングのようについで過ごすことができます。式場スペースは20名様程度の宴會を執り行っていたくのに最適な広さです。通夜の夜に一晚お付き添いいただけます。



● 想送庵 カノジ



# テラツクス

個室個室 個室 内別料金 法要

料金(税抜)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
・105,000円(税込115,500円) / 15:00～翌日14:00まで	45㎡ 約29畳	16	可

45㎡のテラツクスを基調としたテラツクスルームは、少し小さめのお部屋ですが、15名様程度のアットホームな家族葬にぴったりのです。ご自宅のような温かな雰囲気の中で、愛しい方との大葬を時間をとお過ごしください。  
通夜の夜に一晚お付き添いいたします。



● 想定履カノコ

# スタジオ

個室個室 個室 お別料金 法要

料金(税抜)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
・70,000円(税込77,000円) / 15:00～翌日14:00まで ・別席無し(2時間30分) / 45,000円(税込49,500円) ※お別れお席・通夜などにご利用いただく場合は別料金 ・夜間利用(17:00～翌日9:00) / 35,000円(税込38,500円) ※テラツクス以上の広さ/価格に、追加利用する場合は別料金 30㎡のご自宅のリビングルームのようなスタジオは、全部で5部屋。 5部屋とも故人様のお側で仮眠することが出来ます。	30㎡ 約19畳	和室：10(標準) 洋室：8	可



● 想定履カノコ

# スタンダード

個室安座

料金(税別)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
9:00~21:00まで *23,000円(税込25,300円) / 15:00~翌日14:00まで	15㎡ 約10畳	4	不可

15㎡の9畳の小さなお部屋ですが、ソファ/バーが守られた中で、ご準備までのお時間を故人様に寄り添いながら過ごすことが出来ます。  
スタンダードルームは6部屋全ての壁紙が異なりますので、お好きなお部屋をお選びください。お式にはお召座せませんが、お座せなどの短いお座をお返すことができず、ゆづりとお花入れなどを教わり行っていただくことが出来ます。夜間のお付き添いはご遠慮いただいておりますが、午前9時~午後9時までの12時間のお付き添い、滞在が出来ます。



想送度カノジ

# フネックス

冷房安座 15名

料金(税別)	安座人数	面会	夜間付添
10,000円(税込11,000円) / 24時間毎	15名	1時間面会室利用	不可

何人かの故人様と一緒にお預かりさせていただく相部屋・冷蔵タイプの個室です。金庫をくまなく冷やすることが出来ますので、ご準備までのお時間が長い場合や、お体の状態が心配な故人様に適しています。ご面会は午前9時から午後9時までの間、いつでもおいでください。個室のご面会室を1回30分程度無料でご利用いただけます。



# 面会室・お別れ

面会

お別れ

特葬

個室不可

料金(税別)	広さ(m)	椅子の数	夜間付添
フネックス別室のみ *ご面会:無料(1回30分程度) *ご特葬:お花入れ・出棺式:10,000円(税込11,000円) / 45分	15㎡	4	不可

15㎡の個室で、ご面会やお花入れなどのお別れを行うことができます。ご家族様そろってのご特葬式・お花入れなどの出棺式にご利用いただけます。



想送度カノジ

# よくあるご質問

## Q. お部屋など細かな指定はできますか？

A. できる限り対応させていただきますが、ほかの家族様がご利用中の場合にはご希望に添えないことがございます。ご了承ください。

## Q. チェックイン、チェックアウト時間は何時ですか？

A. チェックインは15時、チェックアウトは翌14時を基準とさせていただきます。  
 プーリーチェックイン/チェックアウトについてはご相談ください。  
 延長料金が必要となりますが、可能な限り対応いたします。

## Q. 面会時間は何時から何時までですか？

A. 営業時間内(9時~21時)とさせていただきます。個室に滞在の方のご家族様は、上記営業時間内であれば、いつでも、何層でも、何時間でもご面会いただけます。  
 アネックスをご利用のご家族様は、30分程度を基準として面会室を無料でご利用いただけます。

## Q. 法要はできますか？

A. はい、ご法要でもご利用いただけます。どうぞご相談ください。

## Q. 家族も泊まることはできますか？

A. スタジオ・テラス・ジュニアスイート・カナルルームをご利用時は夜間お付添が可能です。  
 1組属3名様程度でお願いいたします。1名様追加につき夜間お付添利用料として2,200円(税込)を頂戴いたします。  
 乗員の手配は、1組3,300円(税込)にて承ります。

## Q. 会わせたくない人がいるのですが、対応していただけますか？

A. はい、対応可能です。面会規制など特別な配慮が必要な場合は、チェックインの際にお申し出ください。  
 その他、特別なご事情がある方は、どうぞお気軽にフロントまでお申し出ください。  
 できる限り対応させていただきます。

## Q. たばこは吸えますか？

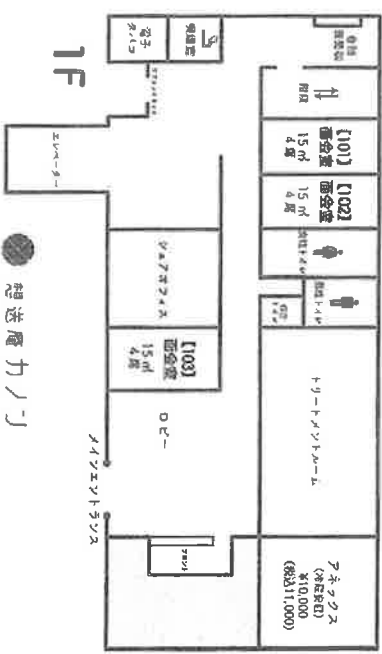
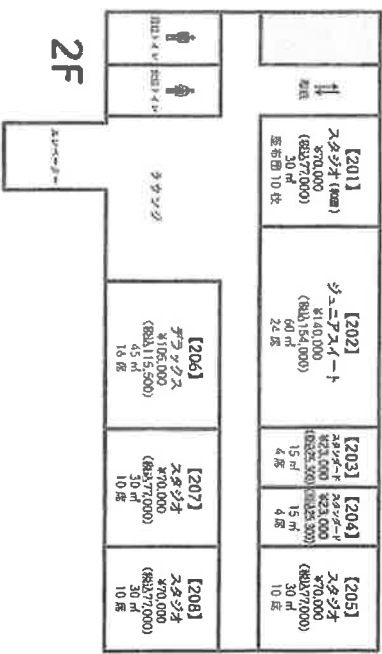
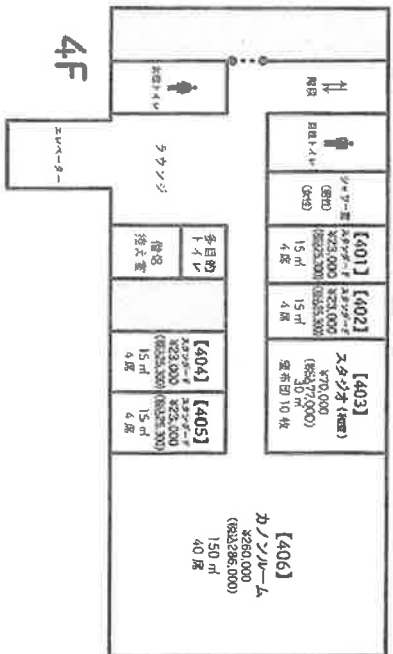
A. 1階の喫煙ルーム、電子タバコ専用ルームをご利用ください。



想送庵カノジ

# フロアマップ

※ 階数は図面している階子の数です。



想送庵カノジ



運営主体：株式会社 ハース・ジャパン

施設名：東京営業所（蒲田安置所）

施設所在地：東京都大田区新蒲田1丁目14番1号

見学：2022年5月20日

「そもそもは寝台車・霊柩車の会社であった。この営業所は寝台車・霊柩車の運用の拠点として考えていた。2019年、2020年から、『より積極的に安置事業に組み込もう』ということで、遺体安置の運営を強化した。

当初、コロナには対応することは想定していなかったが、取引先の葬儀社から、『どうしても』と要請を受け、そもそもの使用（利用）料も低廉であったこともあり、受け入れることとなった。

その際には2階と3階に部屋を分け、いわゆる一般のご遺体と、コロナ関連でお亡くなりになったご遺体と分けています。」

ー「待機される状況は」

「利用者（ご遺体）を待たせている、というようなことはありません。基本、葬儀社を介してご遺体を預かっています。葬儀社からの照会についても『お断り』するようなことはありません。ただ、（ご遺体の受け入れについての）依頼を受けた際、コロナ陽性者・コロナでお亡くなりになったご遺体の場合、納体袋などにキチンと納められていることを確認しています。問い合わせについては、いま（5月）は閑散期。

1、2月はピーク時でしたが、それでもお断りするようなことにはなりませんでした。」

ー「ご遺体をお預かりしている期間（日数）は」

「1、2日という場合が多い。50%ぐらい。最も長かったのは1ヶ月になります。」

「ご遺体のままで、お預かりし（既に棺に納められている場合も有ります）、安置します。葬儀社からの要望があれば、ここ（営業所）で納棺した上で、（葬儀社に）引き渡し（お戻し）します（ご遺体のままで引き渡すことも有ります）。

葬儀社は葬儀場に搬送する場合と、そのまま（納棺した棺）で、この営業所周辺の火葬場に搬送します。搬送先の火葬場は約10キロ圏内にある火葬場が中心ですが、それ以外の火葬の場合もあります。

その他に、依頼があれば遠距離、たとえば愛知、九州などへの搬送の対応も行っています。

一般的に火葬場ではご遺体が棺に収められた状態でなければ、火葬できません。そのため必ずご遺体を納棺する必要があります。株式会社ハース・ジャパンではサービスの一貫として、納棺をパックにするサービスの提供を行っています。」

「ご遺体は病院、警察などから、葬儀社を介して、ここ（営業所）に運び込まれます。病院の場合には遺族からの依頼で故人、ご遺族の自宅まで搬送するということもあります。株式会社ハース・ジャパンは既にご説明しました通り、そもそもは寝台車・霊柩車の運行会社ですから。」

「ほぼ、現状のキャパシティで回っています。今後、もし依頼が増加するというのであれば、既存の今の営業所内の部屋を『遺体安置室』に切り替えることが現実的な対応になるかと考えています。」

— 「ご遺体をお預かりする際の条件は」

「原則、特にありません。ただ、腐敗の激しいご遺体は『遺体安置室』でお預かりしてしまうと、他のご遺体、特に納棺済みのものと、棺の表面は布張りですから、においが移ってしまうことが懸念されます。ここでいう『腐敗の激しいご遺体』というのは、ほぼほぼ警察を経由して葬儀社から照会を受ける場合になります。そうしたご遺体の場合には事前にご連絡・ご相談をさせていただきたいとお知らせしています。が、どうしても事前の連絡もないまま、持ち込まれてしまう場合もあります。持ち込まれてしまったら、受け入れざるを得ません。ただ、(ご遺体の受け入れについての) コロナ陽性者・コロナでお亡くなりになったご遺体の場合、納体袋などにキチンと納められていることを確認しています。

これまでは、それなりの受け入れ体制を整えて、受け入れてきましたが、断る場合もあるかもしれません。損傷の激しいご遺体は、納体袋に入れた上で、棺に納棺、目張りしますが、それでもにおいは漏れてきますね。ですので、消臭剤等の利用は必須ともいえます。

先ほどの『事前の連絡もないまま、持ち込まれてしまう場合』なども、納棺されてあっても、においますので、棺の蓋を開き、なかに消臭剤を振り掛けるというような『処置』をしています。」

「なので、先ほどお話しした株式会社ハース・ジャパンではサービスの一貫として、納棺をバックにするサービスの提供も、そうした背景があります。

東京だから、なのかは分かりませんが、特に個人営業の葬儀社も多いので、そういった納棺の業務についても株式会社ハース・ジャパンでの対応は、好意的に受け止められています。」

— 「(施設の案内) 一般保棺室」

「かつて、コロナ専用の安置室。ここに安置するご遺体は「棺」に納められた状態ですので、ドライアイスで対応しています。他社でも、空調(エアコン)は入れているものの、ドライアイスで対応するのがスタンダードなのでは、と考えております。」

— 「(施設の案内) 面会・打合室」

「ここでは湯灌、納棺、遺族のお別れ(時間予約を求めています。基本的には午前9時から午後6時。重複しそうな時には、その時点で時刻調整をします)の空間として利用しています。

お別れの時だけ、棺をこの部屋に動かし、準備します。泊まりには対応しておりません。ごくまれに、導師である宗教者の方を伴ってくる方もいますが、基本的にはそうした儀礼的な振る舞いについてはお断りしています。その他、湯灌の際に遺族・遺族が立ち会うということもあります。

お別れ(面会)が終わると、棺はまた元の場所(安置室)に戻します。」

(3階に移動)

「(エレベーター内で) 棺は納まります」

— 「(施設の案内) 冷蔵保棺室」

「遺体安置室。全体が冷蔵庫のようなものです。室温は3～4℃に設定しております。ご遺体の受け入れは24時間対応しており、納棺されていても、されていなくても安置できます。」

— 「(施設の案内) 簡易面会室」

「(冷蔵保棺室前スペース) 2階と同じく湯灌、納棺、遺族のお別れに使用しています。照明などで雰囲気作りには気を付けています。」

— 「(施設の案内) 倉庫」

「在庫の保管庫。いまある荷物を片付ければ遺体安置室としても使えます。事実、当初はご遺体の安置をしていた時もありました。ニーズがあれば受け入れられるご遺体数を増やしたいとも思うのですが、その場合には、対応する職員を増やさねばならないので、悩ましいところです。」

— 「エンバーミングについて」

「エンバーミングについては、立地状況などを考えるとここにエンバーミング施設を併設する事は現実的ではないと考えている。

エンバーミングが必要な場合は、葬儀社の判断で、エンバーミングを行っている事業社に搬送されると思います。

腐敗が激しいご遺体を預かった場合ここ(営業所)で出来るのは消臭剤の活用になる(機能としては乾燥剤でもあるので、ある程度の体液には、処理している)。」

(その他)

「構造的な問題として、東京23区の場合、火葬場には安置室があるが、『棺におさめていないと受け入れられません』となる。火葬場内で納棺するスペースは借りられるが『お手伝いはしませんよ』と、指摘される(※令和4年5月時)。となると、葬儀社、とくに小規模の葬儀社の場合、たとえば、病院からご遺体を引き取った後、どのタイミングで納棺作業を行うのかは、切実な問題である。

そうした意味では、当社の営業所のような『ワンクッション受け止める施設』というのは求められていると思う。」

「日本で亡くなった外国人の場合。保険会社を介しての依頼であったりする場合が多い。

搬送から出国まで対応できるが、エンバーミングはエンバーミングを行っている事業社に依頼することになる。」

「海外で亡くなった日本人の場合。入国から搬送まで対応できる。そうした故人は海外用の棺(かなり重厚な造りであることが一般なので、我が国の火葬炉の規格に合わない)に入っていることに加え、納められているご遺体もエンバーミング処置の状態が国によって差があるので、ここで開梱し、湯灌等の処置をして、我が国で使われている棺に移し替える。」



「(施設の案内) 簡易面会室」

「(冷蔵保棺室前スペース) 2階と同じく湯灌、納棺、遺族の『お別れ』に使用。照明などで雰囲気作りを醸成。」

「ここでは湯灌、納棺、遺族のお別れ(時間予約。基本的、午前9時から午後6時。重複しそうな時には、その時点で時刻調整)の空間として利用。

『お別れ』の時だけ、棺をこの部屋に動かし、準備。泊まりには対応していない。ごくまれに、導師である宗教者の方を伴ってくる方もいますが、基本的にはそうした儀礼的な振る舞いについてはお断り。

その他、湯灌の際に遺族・遺族が立ち会うということもあります。

お別れ(面会)が終わると、棺はまた元の場所(安置室)に戻す。」



「(施設の案内) 簡易面会室」

「(冷蔵保棺室前スペース) 2階と同じく湯灌、納棺、遺族の『お別れ』に使用。照明などで雰囲気作りを醸成。」





前出「(施設の案内) 簡易面会室」。

別角度から。



「(施設の案内) 冷蔵保棺室」(扉・表示)

「遺体安置室。全体が冷蔵庫のようなもの。室温は3～4℃に設定。ご遺体の受け入れは24時間対応。納棺されていても、されていなくても安置(但し、コロナ等感染ご遺体については、納体袋に入っていることは、電話受付時に確認)。」

「遺体安置室(冷蔵保棺室)」は全体が冷蔵庫のようなもの。室温は3～4℃に設定。ご遺体の受け入れは24時間対応。」

「遺体安置室(冷蔵保棺室)。納棺されていても、されていなくても安置。」



腐敗が激しいご遺体を預かった場合ここ（営業所）で出来るのは消臭剤の活用になる（機能としては乾燥剤でもあるので、ある程度の体液は対応出来る）。



納棺されていても、匂う場合、棺の蓋を開き、棺内に消臭剤を散布するような『処置』を行う。

## 「ご遺体安置施設」ご案内



株式会社ハース・ジャパン  
ドライアイスボックス 1000型に適合変更しました

## 蒲田 施設ご案内：1階



施設外観



施設外観



エレベーター



ドライアイス

- ◆エレベーターを完備しておりますので、お身体の不自由なお客様も安心してお越し頂けます。
- ◆施設敷地内に駐車スペースがございますので、お客様がお車でお越しの場合も便利にご利用いただけます。
- ◆ドライアイス(有料)の用意がございます。必要の際は、お申し付け下さい。

株式会社ハース・ジャパン

## 蒲田 施設ご案内：2階



面会・打合室1(約8畳)



面会・打合室1・2  
(湯灌の儀・納棺の儀 等、幅広くお使いいただけます)



一般遺体保管室(8体保管可能)



面会・打合室2(約8畳)

- ◆ご親族とのお打ち合わせ、ご面会、納棺、湯灌 等、幅広くご利用頂けます。
- ◆ご親族が多い場合は、2部屋をご利用頂く事が可能です。
- ◆一般遺体保管室は、お棺のご利用をお願いしております。

株式会社ハース・ジャパン

## 蒲田 施設ご案内：3階



簡易面会室



簡易面会室(ご焼香可能)



冷蔵保管室入口 (12体保管可能)



簡易面会室(納棺可能)

- ◆冷蔵保管室は、未納棺(お体のまま)のご遺体のお預かりが可能です。
- ◆簡易面会室は、無料でご利用頂けます。(15分以内)
- ◆簡易面会室でご納棺して頂く事が可能です。
- ◆ご遺体をお預かりしている期間中のドライアイスの交換(交換手数料無料)も承っております。

株式会社ハース・ジャパン

## 蒲田 地図・交通機関情報・近隣斎場情報



### 公共交通機関

JR京浜東北線	【蒲田駅】	より0.8km	徒歩約10分
東急池上線	【蒲田駅】	より0.8km	徒歩約10分
東急池上線	【蓮沼駅】	より0.4km	徒歩約5分
京浜急行	【京急蒲田駅】	より1.4km	徒歩約18分

### 近隣斎場

大田区/【臨海斎場】	まで 約6km
品川区/【桐ヶ谷斎場】	まで 約8km
川崎市/【かわさき南部斎場】	まで 約8km

環状八号線「新蒲田1丁目」交差点横に立地しておりますので、各斎場へのアクセスが大変便利です。

株式会社ハース・ジャパン

## ご利用方法（蒲田・船橋共通）

- ①ご連絡（お時間によっては、弊社コールセンターに転送される場合があります）
- **東京営業所：03-6428-7440**
- 施設の空き状況をご確認願います。
- ②入庫
  - 搬送会社様の指定はございません。いずれの会社様のお車でもご入庫頂けます。
- ③「利用申込書」ご記入
- 
- ④お預かり

株式会社ハース・ジャパン

## その他

- ◆長期間のお預かりも承っております。
- ◆長期間のご利用時の料金は、別途ご相談させていただきます。
- ◆ご遺体の損傷(腐敗)が激しい場合は、ご利用をお断りする場合がございます。ご了承願います。
- ◆ご遺体の損傷(腐敗)の状況によって、消臭剤BFCC(オーストラリア製)、バイオシール(特殊密着式納体シート)等のご利用をお勧めしております(有料)。



(バイオシール)



株式会社ハース・ジャパン

## ご注意頂きたい事

- ◆ご利用の際は、必ず、事前にご連絡をお願い致します

**連絡先 東京営業所:03-6428-7440**

※お時間によっては、ご遺族のご面会に対応できない場合がございますのでご注意願います。

- ◆ご遺体安置専用施設のため  
「貸しホール」としての運用はいたしておりません。ご了承願います。

株式会社ハース・ジャパン

## ご参考

### 【安置日数別 安置料金】

(税込)

安置場所	安置日数						
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
冷蔵保管室	¥5,500	¥9,900	¥14,300	¥18,700	¥23,100	¥27,500	¥31,900

◆2日目以降は12時間毎で計算しますので、実際には上記の料金より、さらにお安くご利用いただける場合がございます。

### 【近隣斎場への距離】

蒲田～大田区/[臨海斎場]	まで	約6km
蒲田～品川区/[桐ヶ谷斎場]	まで	約8km
蒲田～川崎市/[かわさき南部斎場]	まで	約8km

### 【ハース・ジャパン寝台車料金(昼間料金)】

#### 臨海斎場

蒲田施設から 桐ヶ谷斎場 まで 14,960円(税込)

かわさき南部斎場

株式会社ハース・ジャパン

## ご利用料金 (令和元年7月より 新料金)

品名		料金(税込)
冷蔵遺体保管室	入庫より24時間以内	¥5,500
冷蔵遺体保管室	以降12時間毎	¥2,200
一般遺体保管室	入庫より24時間以内	¥4,620
一般遺体保管室	以降12時間毎	¥1,650
面会・打合せ室	1時間以内	¥4,400
面会・打合せ室	以降30分毎	¥2,200
簡易面会室	15分以内	無料
簡易面会室	15分を超過後 1時間以内	¥4,400
ドライアイス	ドライバック込 10kg	¥4,400
バイオシール	(密閉式納体シート)	¥16,500
消臭剤		¥2,200

株式会社ハース・ジャパン

## 蒲田 施設概要

- 住 所 : 東京都大田区新蒲田1-14-1  
環状八号線沿い 新蒲田1丁目交差点角  
ご親族用駐車場スペース有り。近隣にコインパーキング有り。
- 保管室 : 冷蔵遺体保管 12体  
一般遺体保管 8体
- 面会室 : 面会・打合せ室 2部屋(各8畳)(打合せ・納棺・湯灌 可)
- その他 : 簡易面会スペース(冷蔵庫前)(面会・納棺 可)
- トイレ : 洋式3室
- エレベーター : 有り

※いずれの搬送会社様のお車もお受けいたしております。



運営主体：株式会社 吉澤企画

施設名：ステーション町田

施設所在地：東京都町田市成瀬6丁目13番40番

見学：2022年5月20日

「この施設は葬儀社さんに利用していただいている、ご遺体の安置施設になります。特に葬儀場などを有しない、有してはいたとしても小規模、そういった葬儀社さんです。そうした場合、お亡くなりになった方が出ると、たとえば、深夜であったりすると一公営の火葬場などでも（遺体安置を）受け入れてくれている場合もあるのですが、直接は受け入れていただくのは難しかったりする場合もある、のでご遺体が葬儀されるまで、あるいは火葬場で火葬されるまでの期間を受け持つ施設です。

なので、個人の方から、というより、いわば業務用として、葬儀社さんなどからのご依頼を受け入れるという施設になっております。」

—「ここにご遺体を搬入するには」

—「車（寝台車）ということになります」

—「ご遺体を棺におさめるのは」

—「『儀式』という意味での納棺なのであれば、葬儀社さんで、いわゆる『処置』の意味での納棺ということであれば、こちら（ステーション町田）で、ということになります。ここ（ステーション町田）にはご遺族の方がくるようなことは、多くはありません。」

「ご遺体が納棺されていない状態—病院から、あるいは、警察から直接、運び込まれてくるというケースもありますので、ストレッチャーからご遺体用のベッド（板）に乗せ換えて、移動・運べる様に出来るようする（ことで、処置に臨む）ということになります。

コロナで亡くなられた方の処置にあたっては防護服の着用を基本にしています。一時期、不足したこともあり、その確保に苦労しました。その衛生基準や作業基準については、医師やエンバーマーの講師を招いて指導を受けたりしております。ちなみにコロナでお亡くなりになった方の紹介・依頼を受けた場合、専用（対応している）遺体安置施設を紹介する。

ご遺体をおさめる『棚』は自社製。台車はイギリス製なのですが、基本、あちらでは身体が大きいですし、また、棺も我が国のものに比べて凝ったつくりで重たいものですので、そのあたりは日本様にカスタマイズしてもらっています。

台車は高さが電動で調整出来ます。バッテリーを利用したものです。ので、電源からのコードなどの場合には、移動の制約などがありますが、この台車ではそういうコトはありません。」

「保冷庫（21体収容可能—目一杯で22、23体。そこが限界になりますね。遺体安置室・収容スペース）の温度は3℃設定にしております。」

「安置するにあたっては納棺をしているのですが、いわゆる『一時処置』的なもの、具体的にはたとえば警察案件などで、事故・事件現場での状態で、それを警察が納体袋に入れたような状態で、こちら（ステーション町田）に運び込まれるといった場合、納体袋のままでの受け入れは可能ではありますが、（警察から遺体を引き渡された葬儀社から）『納棺して欲しい』ということであれば、ここで『処置』をした上で、納棺した、ご遺体の入った棺で安置するというようなこともあります。」

「稀に遺族の方が面会をしたいと来訪する場合がありますが、その場合には面会室などで、待機していただき、こちら（ステーション町田）では、いわば業務スペースともいえる遺体安置室からご遺体を取り出し、いわゆる面会室に移動。そこでご遺族とご遺体（をおさめた棺）が向き合うこととなります。」

—「ご遺体をこちら（ステーション町田）で管理・預かっている期間は？」

「大体、6日間程度が平均になります。長い場合としては福祉—生活保護の方などは1ヶ月。何故長くなるのかというと、身元の確認が出来ないなどが理由になっています。それ以外の場合では、お寺が決まらない（見つからない）、火葬場の待機が理由で、2週間程度でしょうか。特にコロナの時には顕著でした。」

—「開設されたのは何時頃ですか」

「2017年から、になります。他にも（株）吉澤企画では、登戸（12体収容可能）、磯子（12体収容可能）、三田（2体収容可能—三田は安置施設、というよりも式場的な性格が強い）の3箇所で開催しています。また、寝台車（霊柩車）は12台運用しています。」

—「ご遺体の預かり件数は」

「ここ（ステーション町田）では、月単位では、概ね30から40体です。季節的な変動はありません。」

—「ご遺体の預かり日数は」

「平均すると4日程度から、1週間といった処。多いのは4、5日。次第に長期間化する傾向にあるのかなあ、というのが現場の感覚になります。」

先ほど述べたように、他でも施設がありますが、地域差があるように思います。それは火葬場の受け入れのキャパシティと、その地域の人口動態、年齢構成などに関係があるように思います。

地域差、という意味でいえば、たとえば、長期の管理は磯子が長い。福祉—生活保護の方などがあります。こうしたのは、地域的な特性なのではないでしょうか。」

—「ここに運ばれてくるご遺体の『依頼者』は」

「葬儀社が99%。他は病院、老人ホーム、警察からといったところです。ただ、病院、老人ホーム、警察からであっても、葬儀社を介してという形になるのが一般的です。先ほど述べた寝台車（霊柩車）は、病院、老人ホーム、警察からの受け入れ時に、葬儀社などで手配出来ない場合にはご遺体の搬入手段として、利用している。」

個人からの依頼というのは年に1回、せいぜい数件程度。」

—「稼働しているのは、休日は。」

「一応、年始の3賀日間は受け入れしていません。ただ、保管をしているご遺体を管理しなくてはならないので、実質的には365日勤務です。預かっているご遺体は適切に管理をしても、時間・日数でどうしても変化してしまいます。そうした状況についても含め、定期的に依頼者（葬儀社）に報告しております。なので、職員は誰かが詰めていなくてはなりません。」

—「規制は」

「遺体安置所だから、というより、たとえば排水なら、排水の水質基準があるわけですし、あるいは作業環境測定など。廃棄物についても、特定管理産業廃棄物（の処理基準・規制）があります。そうした様々な基準、基準値がある訳ですので、適用対象となるのであれば、それら拠っています。

まとめると、ご遺体の処置などでは体液の処理が迫られる訳なので、そういう意味では、医療施設の延長線に遺体安置施設がある、というくらいの認識が必要になると。

加えて、施設を支障なく運営することを考えた場合、周辺住民との協調・ご理解をいただくことも必要なので、そのご理解をいただける『基準』というものも、法律、条令の有無の議論とは別義のものとして気を付けなくてはならないものだと考えています。」

—「(改めて) 施設の利用のなされかた。流れは」

「病院、警察などが葬儀社にご遺体を引き渡し。ご遺体を引き受けた葬儀社は、(株)吉澤企画に連絡した上で、自社の寝台車（霊柩車）で、こちら（ステーション町田）にご遺体を搬入。これが3割。

自社の寝台車が無い葬儀社から依頼を受けた場合には、(株)吉澤企画保有の寝台車で、直接の依頼主でもある葬儀社（の担当者）と、病院、警察に向かい、ご遺体を引き受け、こちら（ステーション町田）にご遺体を搬入。こちらが7割。

必要があれば処置を行い、棺に納棺（棺の状態でも搬入する場合も）。

以後、葬儀社にて、葬儀の施行や火葬場の手配（予約）が決まるまで安置（管理）⇒これが4、5日。葬儀社にて、葬儀の施行や火葬場の手配（予約）が決まると、指定の葬儀式場（等）に、(株)吉澤企画保有の寝台車で、ご遺体がおさめられた棺を搬出（葬儀社が自社の寝台車がある場合には、ここ（ステーション町田）で、葬儀社の寝台車に乗せ、送り出す）。

というのが基本的な『流れ』になる」

—「遺族への対応は」

「原則、面会までが限度。いわゆる『葬儀』は行うことは施設のキャパシティとしては難しい。面会を希望という場合には、葬儀社を介して予約をしていただく。こちら（ステーション町田）では遺体安置室（保冷室）からご遺体（棺）を取り出し、面会が出来るように準備・迎え入れる。」

—「コロナへの対応は」

「ステーション町田では受け入れてはいない。コロナでお亡くなりになった方の紹介・依頼を受けた場合、専用（対応している）遺体安置施設を使用、又は紹介する。(株)吉澤企画ではご遺体の搬送にも対応しているが、ご遺体を預ける側、搬送先が適切に対応していただいているのだと『考えている』」



ご遺体を引き受けた葬儀社は、(株)吉澤企画に連絡した上で、自社の寝台車(霊柩車)で、こちら(ステーション町田)にご遺体を搬入。ここは搬入、搬出スペース。右側ドア奥が遺体安置室。



搬入、搬出スペース。上写真の反対側から。右側の奥は、遺族の方が面会をしたいと来訪なされた場合の面会室。



前出写真にてコ  
メした、「面会室」  
全景。



遺体移動用台車。



遺体移動用台車  
(稼働状況)。



遺体移動用台車  
(稼働状況)。



遺体移動用台車  
(稼働状況)。  
高い遺体安置棚  
への移動も可能。

一律 5,500円 / 1日

弊社の寝台車・寝台車のご利用時に限り  
入庫出庫のどちらかでご搬送をご利用の場合 ... 2日間無料  
入庫出庫で2回ご搬送をご利用の場合 ... 6日間無料

3,300円/1時間

延長 1,650円/30分  
ご面会、ご納棺、打ち合わせ等ご利用の場合  
一時利用でメイクやご納棺処置・作業にも利用可能です。  
※ステーション三田で搬送利用の場合は16,500円/2時間

16,500円/2時間

火葬場へご出棺前に面会室をご利用の場合の利用料  
準備からご出棺まで2時間ご利用可能です。  
※ステーション三田では火葬式利用となります。

11,000円/1時間

延長 5,500円/1時間  
式場や霊安室へご出棺前に面会室をご利用し、  
搬送車に同行または同乗される場合の利用料

利用案内

- 利用時間は10～17時(祭日外利用お追加料金1時間2,200円)
- 送葬時間内に限り、持ち込み可能です。
- 送葬の人数は各部屋の広さの関係上、総名簿数でお預りします。
- お車庫でのお預りです。(ステーション三田は常温保管です。)
- お体のみ(保納期)でのお預りも、お体の搬送やご納棺作業も預ります。
- ご面会等の対応は担当者の立ち合いにて弊社スタッフでも対応可。
- 近隣の事情もございませ、お経やお題目の発声、焼物のご使用はご遠慮をお願いいたします。また、改道車や隣居のものとなるお車の出入りはお断りさせていただきます。
- 夜間の入庫をご希望の場合、原則として弊社の寝台車のご利用をお願いします。

貸し式場のご案内

家族葬ホールのみりと

- 全館利用 2日利用 13.2万円
- 全館利用 1日利用 8.8万円
- 小式場 1日利用 4.4万円

※火葬場利用にお預り代は、花嫁まつり

弘法寺ホール

- 小ホール利用 2日利用 14.3万円
- 小ホール利用 1日利用 9.9万円
- 火葬式利用 4.95万円

※火葬場利用にお預り代は、花嫁まつり



株式会社吉澤企画 ~ 葬儀業界をサポート ~  
 電話予約は 044-911-8857  
 本社営業所 神奈川県川崎市多摩区登戸新町391  
 登戸営業所 神奈川県川崎市多摩区登戸新町302  
 横浜営業所 神奈川県横浜市磯子区栗木1-29-13  
 町田営業所 東京都町田市成瀬6-13-40  
 三田営業所 東京都港区三田2-12-5 弘法寺内

業界初の無料安置施設

ご遺体安置施設  
 ステーションシリーズ  
 STATION series

- ステーション三田
- ステーション町田
- ステーション横浜
- ステーション登戸



ご安置・ご面会・ご納棺・火葬式・小さな家族葬  
ご家族とのしめやかな告別のひと時  
ご遺族、ご友人のための静かなスペース



- スティーションサービスの特徴
- ご納棺マイク
  - ご面会
  - 打ち合わせ
  - お別れ
  - 備品販売
  - 霊柩搬送

ご遺体安置からご出棺までのあらゆる場面でご利用できます。  
その他、遺体処置や湯灌、マイク施術の場所として一時的に提供可能です。

- スティーションサービス店舗
- 川崎、多摩地区なら  
スティーション登戸  
ドライブイン無人販売可
  - 町田、相模原エリアなら  
スティーション町田  
ドライブイン無人販売可
  - 横浜、湘南エリアなら  
スティーション磯子  
ドライブイン無人販売可
  - 東京都心エリアなら  
スティーション三田  
ドライブイン無人販売可
- その他サービス (営業所対応時間10時～17時)
- 遺影写真印刷のお届けサービス 8,800円～  
・写真の加工、印刷、お届けまで承ります。  
・四つ切額+手札額、額引ポスター、CD付き
  - 火葬場予約代行サービス 2,200円  
・東京、神奈川の主要火葬場の空き確認から予約まで代行致します。
  - マイクロバス手配 一律 41,250円※  
・東京、神奈川の主要火葬場へのマイクロバスの手配可能。  
※：秘葬地、行程によって料金が異なります。

販売備品

- ドライブイン10kg **無人販売** 2,200円
  - ドライブイン10kg ※1 3,850円
  - お棺6.25尺(白布・桐) ※2 16,500円
  - 収骨器(白)セット 6,600円
  - 納棺具一式(帷子・草履・編み笠) 4,950円
- ※1 弊社でのドライブイン交換、桜台搬送に伴う郵送の料金を指す。  
※2 納棺作業費込みの料金です。

各種サービス

- 納棺作業 3,850円
  - ご遺体処置 2,750円
  - 着せ替え作業 2,750円
  - 女性ナチュラルメイク 5,500円
  - 男性ナチュラルメイク 3,300円
  - カバメイク 11,000円
  - 修復メイク 33,000円
  - 出張メイク※ 22,000円
  - 湯灌サービス 44,000円
  - 火葬場案内料 14,300円
- ※：施葬内容により変動、各営業所から20km以内(延長10km毎に+3,300円)

寝台車・霊柩車搬送

- 搬送距離料金 10kmまで 16,500円～
- 火葬場搬送料 10kmまで 19,800円～
- ・クワンノ霊柩車(1名乗車)
- ・バン型寝台車(2～3名乗車)



◇長距離搬送、警察検案にも対応しています。

(全て税込価格)

株式会社吉澤企画WEBSITE  
～葬儀業界をトータルサポート～  
YOSHIZAWA KIKAKU  
https://kikaku-y.co.jp/totalsupport

吉澤企画 公式facebook  
https://www.facebook.com/yoshizawakaku/



運営主体：株式会社 ニチリョク

施設名：ラステル新横浜

施設所在地：神奈川県横浜市港北区新横浜 2 丁目 15 番 19 号

見学：2022 年 5 月 23 日

『ラステル新横浜』は地下 1 階、地上 9 階建てになっています。9 階はオフィスと仏具などの販売用ギャラリーになっています。地下は葬儀式場、特に参列者の多い葬儀の場合に利用しています。

1 階は受付・フロント。ご出棺の最後のお別れ、見送ることもここで行われます。

2 階は会食会場、ご葬儀をされた方の会食会場になります。

3 階は家族葬のフロア。

4 階はリビング葬—内装は一般のご家庭のお宅のようにデザインしております。

5 階は控室、特に導師の方の着替え室となっております。

6 階は『自動搬送式のご遺体安置室』となっております、これはニチリョクのオリジナルとなっております。この 6 階では 24 時間、いつでもご遺族は故人と面会することが出来るようにしております。こうした点も『ラステル新横浜』ならではの、であると考えております。

7 階もご遺体のご安置をしておりますが、ここでは完全個室としておりまして、お部屋を借り上げていただいて、お時間を気にすることもなく、心ゆくまでのお別れが出来る、というコンセプトとなっております。最後に 8 階がブースとなっております、終活のセミナーなども、ここで開催しております。」

(ここから施設内見学)

「(まず 9 階) 仏具などの販売用ギャラリーにある商品をご覧いただければお分かりいただけるかと思いますが、近年はお仏壇もコンパクト・モダンになりました。お位牌も同様です。携帯型「お位牌」などというものもあります。

お位牌はいち故人にひとつではなく、ひとつのお位牌にご先祖様も反映されます。とくに嫁いだ方などは、ご実家のご先祖様やご親族に思いを馳せるのにお使いいただいております。

その他、いわゆる『手元供養』の商品など展示しております。『手元供養』については分骨壺、容器になります。ご遺骨についてはそのまま容器に入れる場合もありますし、容器に応じて細かくすることもあります。いわゆる本骨や、他のご遺骨はお墓におさめたり、散骨する一方で、手元に残して置きたいというニーズはあります。」

「そういう意味では『供養』のあり方が多様化しているのだと実感させられます。」

「8 階は先ほどもお話した通り、セミナールームになります。」

「葬儀社によって、宗教の比率が変わるようです。立地の条件や過去の事情実績から、なのだと思います。ニチリョクでは概ね 90%弱の方が在来仏教。残りの方は神道、無宗教、キリスト教になります。」

「7階です。先ほどもお話しさせていただいた通り、ご遺体のご安置をしておりますが、ここでは完全個室としておりまして、お部屋を借り上げていただいて、お時間を気にすることもなく、心ゆくまでのお別れが出来る、というコンセプトになっております。」

—「ご遺体の保管の仕方は」

「いわゆる保冷室、冷蔵室での管理ということは行っておりません。ただ、この7階には幾つかお部屋がありますが、特徴的な『お部屋』として、ご遺体とご遺族の間にガラスを設置し、ご遺体側では電源を入れればいわゆる保冷室、冷蔵室になります。『カプセル式』と申せましょう。

これは、ご遺体の管理を差別化するというより、こうした面会・お別れのあり方では、ご遺族の方がどういうお気持ちでお受けとめになれるか、ご心情はどうであろうかということで設けてみました。

(部屋が移って)こちらのお部屋では畳敷きとなっております、ここにご遺体を、そのまま、お布団に『お寝かせ』した状態で、ご安置するという形になります。

先のカプセル式もそうでしたが、(カプセル式ではなくとも)一度ご納棺されてしまうと、なかなか故人とご遺族が直接に触れあう、ということが難しくなります。特に、お亡くなりになられた場合には、ご遺族、ご家族は『故人の死』を心情的に受け止めきれないものだと思います。ですから(この畳の部屋では)少しでも長く寄り添えるよう、その『お時間』を大切なものと考えました。

一般的に葬儀のメイン・ピークは通夜・告別式、ご遺族とのお打ち合わせもそこがメインになりがちですが、実は、ご遺族にとっては、その儀礼が始まるまでの間こそ、大切な時間、グリーフケアの時間・プロセスなのではないのか、と我々は考えております。」

—「病院などからここ(ラステル新横浜)に運び込まれてから、ご遺体のまま、というのは、どのぐらいの期間ですか」

「基本、決めてはありません(ただ、ご遺体の状況によっては、早めの納棺をご提案せざるを得ない場合というのもありますし。エンバーミング処置が施されているご遺体などは、当然異なります)最終的には『お通夜』を迎える当日まで、となります。」

—「エンバーミングは？」

「専門の業者に委託しています(複数社)。施行の割合は現在(2022年5月現在で)全体の40%。これは増加基調にあります。ご遺体が損傷している場合は無論、そうではない場合もドライアイスなどでご遺体を『処置』していると、どうしても、ご遺体の状況が変わってゆかざるを得ません。そうしたことにならないようにする意味からもエンバーミングをおすすめしており、需要は高まってきています。

エンバーミング(のサービス・方法も)一律ではありません。エンバーミングは『遺体衛生処置』になりますが、湯灌や、死に化粧というようなものは、『美粧』あるいは、『儀式サービス』になります。

ご遺族とのかかわり、という点から申せば、エンバーミングは『遺体衛生処置』ですので、そこにご遺族が立ち会うことはありませんが、湯灌や、死に化粧・メイクは『儀式(サービス)』ですから、ご遺族は立ち会ったり、参加することもあります。

また、ご遺体の状況によつての違いもあります。どうしてもエンバーミングをなさった方が良い場合、湯

灌や死に化粧でも良い場合と様々です。ちなみに、ここ（ラステル横浜）での湯灌の処置は、職員ではなく、いわゆる『湯灌師』にお任せしております。

湯灌の作業も、バスタブの様なご遺体そのまま納まる大きさの湯船のようなものに、ネット（網）で遺体を受け止め、シャワーで洗い流すという方法になっています。」

—「エンバーミングで保全出来る期間は」

「保湿などのケアを適切にしていれば、大体2ヶ月程度といったところですが。ただ、実際にご遺体のままで寄り添われる、というのは長いご遺族で20日間。通常ですと5～7日、1週間弱になります。また、一度、ドライアイスを用いてしまうと、（エンバーミング処置が）難しくなりますので、もし、エンバーミングを行うのであれば、なるべく早い段階で、とご案内させていただいています。」

—「いや、それでも、お亡くなりになられたご遺族が、エンバーミングという施術を受け止められますか」

「ご案内・ご説明させていただいている間は、なるべくドライアイスの利用を控えるとか、先ほどの保冷室・冷蔵機能のある『カプセル式』で一旦はお預かりするようにしております。そうした上で（お亡くなりになってから）2、3日のうちまでにはお決めいただくようにしております。」

—「6階です。『自動搬送式のご遺体安置室』となっております、これはニチリョクのオリジナルとなっております。この6階では24時間、いつでもご遺族は故人と面会することが出来るようにしております。こうした点も『ラステル新横浜』ならではの、であると考えております。

フロアはご遺体の安置エリアと面会エリアに分けられています。『自動搬送式霊安室』と呼称しております。スタッフが立ち会ってなくとも、1階のフロントで故人、ご遺族様にお立ち寄りいただき、当該ご遺体の『番号』を確認していただき、それをボタンひとつで遺体は『安置エリア』から、『面会室』まで（ルールに乗って）運び出されてくるという仕組みになっています。」

—「7階の個別安置室との違いは」

「ここ（6階）では付き添いは出来ません。あくまでも、『面会』（30分程度。24時間対応はしてはいるものの、事前の訪問連絡をしていただくようにしております）するだけに留まります。6階では、面会室2部屋、ご遺体の安置は現在20体。ちなみに、ここでお預かりしているご遺体についても、先のフロアと同様に『エンバーミング』処置がなされています。

ただ、このご安置については、15から20体分増やそうと考えております。ただ、そのご安置するご遺体の受け入れ可能数を増やす場合には、『面会』あるいは『寄り添い』のあり方についても見直していかなくてはならないと考えています。」

—「ご遺体の衛生管理は」

「お亡くなりになられた故人の死因を確認しています。死因によって、以後の『変化』にも違いがあるものですから。」

「4階です。ここではリビング葬—内装は一般のご家庭のお宅のようにデザインしております。手前と

奥、2セットあります。(見学者コメ「広いなあ」)ここでの使われ方は通夜・告別式・初七日です。初七日は告別式の後、火葬場で火葬・拾骨した後、お戻りになられて初七日をする場合もありますが、告別式という式のなかで初七日も済ませ、火葬場に行かれて、お戻りになれないケースが多くなっています。]

ー「随分、葬儀に費やされる時間・日数が短くなっていますね。それはコロナの影響ですか。」

「コロナ以前からです。ただ、その部分のご遺族が何を希望なされるのか、あるいは火葬場の状況次第という部分もあります(たとえば火葬時間が長いので、待ち時間の間に『告別』式が出来る場合もあるが、短い場合、あるいはご遺族用のそうした空間が(火葬場に)無い場合など)。」

「3階です。こちらも4階と機能的には変わらないのですが、シンプルな造りになっています。家族葬の人数はほぼ20名を超えることはありません。『家族葬』の定義ですが、厳密な言い方をするのは難しいですね。ご家族、親族、あとはごく近い知人、といったところでしょうか。

これはあくまで個人的な意見になりますが、訃報はまず、お伝えして下さい。と。そして、まさしく家族葬—お身内だけの葬儀、とする場合、訃報を聞き及んだ方から、香典や供花、これについてもご辞退するというご遺族もおられます。(「わたくしの個人的な意見なのですが」という断りが入りつつ)香典はご遺族宛のものですから、お断りされるのはご遺族のお考えとなりましょう。ですが、供花はお亡くなりになられた方への手向けですので、それはお受けになられた方が、と考えます。」

「2階です。ここは会食会場、ご葬儀をされた方の会食会場になります。3階の家族葬に参列された方や地下1階の葬儀場で参列された方がご利用なされることを想定しています。

家族葬については、必ずしもお身内、のみではなく、知人の方の参列も想定しています。故人との関係性というよりも参加される方が20名以下の場合には『家族葬』。告別式1日だけの場合には『1日葬』と呼称させていただいております。

(地下1階に移動)

この式場では3階のお部屋・家族葬の稼働率とあまり変わりありません。何故なら、コロナのソーシャルディスタンスで距離をとりますので、家族『葬儀』なら、この地下1階の式場を使っても、違和感はありません。

ちなみに弊社では花祭壇を採用しておりまして、いわゆる白木の祭壇がありません。」

統括説明会(8階にて)

「ここはセミナールームになります。セミナー(スクール)のみに利用するのではなく、お葬儀のご相談なども、実際に9階にある棺などを実際にご覧いただきながら、お話をさせていただいたりします。」

ー「遺体安置ホールと、葬儀を行うホール、ご遺体の移動は。」

「タンカ(ストレッチャー)で移動させています。その場合には利用者が利用するエレベーターではなく、別途、専用のエレベーターがありますので、動線が交わることはありません。」

また、ご安置しているご遺体は、必ずしもここ（ラステル横浜）で葬儀をする、という訳ではなく、そのまま火葬場にご遺体を運ぶ『直葬』という場合もありますし、他社の葬儀場に移動なされる方もおられます。」

— 「他社との協業は。」

「基本的にはありません。式場はほぼ自社（ニチリョク）にご依頼受けたもので、いっぱいですから。ただ、ご遺体の安置については、これからご遺体の収容数を増やすことも検討されているので、そうした点については、他社との協業についての検討も視野に入ってくるのかもしれませんが。

そもそも、ご遺体の安置施設はここ（ラステル横浜）ではフル稼働ですし、業界全体としては足りないと感じます。」

— 「コロナの感染死亡者は。」

「受け入れてはおりません。陽性と分かった場合、別途、コロナのご遺体も受け入れておられる『処』にご案内させていただいております。ただ、火葬され納骨された骨壺の形で、『地下は葬儀式場』『3階は家族葬のフロア』『4階はリビング葬』で対応させていただく、ということはありません。」

— 「ご遺体は何処から運ばれてきますか。」

「80%は病院から20%は老人ホームなどの施設、ご自宅、警察、などからです。この比率、あまり変わりはありません。

ただ、内訳、実態が変わってきているのではないのでしょうか。たとえば、ご自宅でお亡くなりになられた場合、『看取り』と『孤独死』の大きな違いがあります。孤独死の場合は自宅で亡くなったにもかかわらず、警察での監察が必要になるので、『警察から』となります。」

— 「家族葬、1日葬、直葬 …… の違いは。」

「先ほどもご説明しましたが、わたしは『商品名』だと考えています。

ご遺族の方との相談や、終活のセミナーでは、家族葬、1日葬、直葬という言葉の使い方は葬儀社で異なります。是非、各々のサービスの内容と費用をよくご確認下さい、とご説明させていただいております。」



7階。完全個室。  
部屋は借り上げ。  
「お時間を気にせず、心ゆくお別れが出来る」がコンセプト。特徴的な『お部屋』として、ご遺体とご遺族の間にガラスを設置し、ご遺体側は保冷室、冷蔵室。『カプセル式』。こうした面会・お別れのあり方は、ご遺族のお気持ち、ご心情に配慮した。



4階。ここはリビング葬。内装は一般のご家庭のお宅のようにデザイン。手前と奥、2セット。ここの使われ方は通夜・告別式・初七日です。初七日は告別式の後、火葬場で火葬・拾骨した後、戻って初七日する場合も。告別式のなかで初七日も済ませ、火葬場に行き、戻らないケース多い。



4階。ここはリビング葬—内装は一般のご家庭のお宅のようにデザイン。



4階。ここはリビング葬—内装は一般のご家庭のお宅のようにデザイン。家族葬の人数はほぼ20名を超えることはない。『家族葬』の定義ですが、厳密な言い方をするのは難しい。ご家族、親族、あとはごく近い知人、といったところ。





3階。ここは会食会場、ご葬儀した方の会食会場になります。3階の家族葬に参列された方や地下1階の葬儀場で参列された方の利用を想定。



地下1階。この式場では3階の「家族葬」の稼働率とあまり変わらない。(何故なら)コロナのソーシャルディスタンスで距離をとるので、家族『葬儀』なら、この地下1階の式場を使用しても、違和感はない。花祭壇を採用。白木の祭壇はない。

感染予防対策 —— 新型コロナウイルスからお客様を守るために。

ナステルでは、すべての方に安心してご利用いただくため、下記の対策を講じています。

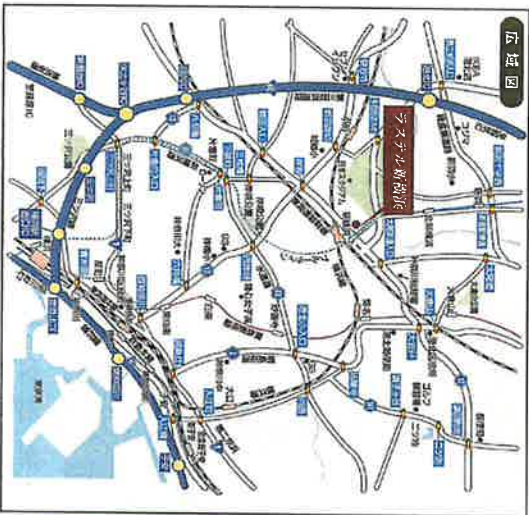


- ☑ ご来館の方へ検温のご協力をお願い
- ☑ スタッフにマスク着用、検温、手指の消毒を徹底
- ☑ ご遺族様およびご参列者様のマスク着用を徹底
- ☑ お食事は折詰を推奨
- ☑ ゆったりとした座席の配置
- ☑ 入口にアルコール消毒液を配備
- ☑ エレベーターのボタン、テーブル等の消毒
- ☑ ご参列になれない方への葬儀の動画配信

ご協力をお願いいたします。

交通のご案内

新横浜駅北口18番出口すぐ。どこからでも集まりやすいのが、地。



お車でお願いの際は、周辺のコインパーキングをご利用ください。  
(施設には駐車場がありません。)

ナステル 新横浜

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-15-19



24時間受付 年中無休  
0120-00-44-00  
http://004400.jp



24時間 いつでも 設置ご面会

保存版  
ご相談・お見積り無料  
見学随時受付



http://004400.jp



ナステル 新横浜

上場企業ニチリョクが運営する総合葬儀式場

年中無休  
お迎えにまいります  
0120-00-44-00

無料  
『事前相談』『事前見積り』

- ☑ 事前見積りをする事で、費用を知ることができて安心
  - ☑ 具体的な式場の様子が見れて、比較検討できるので安心
  - ☑ 疑問や不安なことが事前に解消できて安心
- ※事前相談をご希望の方は、お気軽にフリーダイヤルまでお問い合わせください。



プライベートの守られた  
専用のご面会室

7人個室面会室

## お別れまでの大切な時間を ラステルで

ラステルには安心の環境と設備が整っています。  
病院や老人福祉施設、またご自宅などで  
おじくなりになられた後、様々な理由から、  
マンション等のご自宅でのご安寝が難しい場合などに、  
ぜひラステルをご利用ください。  
心安らかに、最期のお別れの時間を  
お過ごしください。

### 最後のお風呂「湯灌」



▲湯灌前か丁温にお預めします。  
(モジュールを預ったイメージです。)

ご葬儀の前に故人様のお身体を清め、お化粧する  
「湯灌 (ゆかん)」。人生最後のセシモニーを  
飾り、ご家族の想い出を彩りながら旅立ちの準備を  
します (オプション)。

### お見送りはパイプオルガンの 音色に包まれて

葬儀広場▶



### 新幹線も停まる「新横浜駅」8番出口より

11歳浜線に加え、東海道新幹線、市営地下鉄ブルーライン  
が乗り入れるターミナル、新横浜駅。ラステル新横  
は、新幹線改札にも近い北口から徒歩5分という抜群  
の立地を誇ります。

## 充実した設備でご家族の想いを形にするーラステル新横浜

### ご会葬者の多いご葬儀に



地下階・大ホール「集 (つどい)」は、100名様までゆつくと  
ご着席いただける式場です。家族葬でも、たくさんのご友人  
かご参列になる場合や、会社関係などにもお声掛けする  
一般葬など、ご会葬者の多いご葬儀に最適です。

### オーダーメイドのご葬儀も



ラステルでは、故人様らしいお見送りとなるよう、お花のデザ  
インや椅子の配置などを、ご家族の希望通りにコーディネート  
いたします。また、仏式をはじめとする宗教葬はもと  
より、お坊様をお呼びしない無宗教葬にも対応いたします。

### 精進落としやお別れ会も



2階のバンケットルームは、ホテルの会食を彷彿とさせる  
上質な時間と空間を提供します。ラステルの厨房で  
ご用意する選りすぐりの和・洋・中華料理を、ビュッフェ  
スタイルでお召し上がりください。

### 仏壇・仏具は「ギヤラリー」で



供養に関わる品から何でも揃う、8階「仏壇ギヤラリー」が  
りニューラルオープンしました。ご家族の心に寄り添う  
仏壇・仏具を豊富に取り揃え、皆様のご来店をお待ちして  
おります。

### 万全のアフターサポート



「葬儀後のこと」もラステルにお任せください。  
ラステルでは、お墓や仏壇などご供養に関わるご相談だけ  
でなく、運営全体である上場企業ニチヨウの強固な事業  
ネットワークも活用し、相談や行政手続きでもしっかりと対応  
できるサポート体制を整えています。  
ご葬儀のあとも、どんなことでも私たちに相談ください。

- 葬儀の手続き** 探訪先の町返葬士法人等をご依頼し、高品質のサービスが提供いたします。
- 遺品整理** 故人様がお住まいになつておられたお部屋も、専門業者が整理いたします。
- お墓** 人気の横浜三ツ岡納骨堂 (緑歌り) をはじめ、墓地・納骨堂をご提案させていただきます。
- 仏壇** どんなお葬儀にもマッチするモダン仏壇をはじめ祭具も豊富に取り揃えました。
- 法事・法要** 初七日、四十九日法要、回忌法要などご葬儀後のご供養もお手伝いいたします。



プライベートの守られた  
専用のご面会室

7個室面会室



▲6Fご面会室入口 (お別れのため、ドアを閉めています)

## お別れまでの大切な時間を ラステルで

ラステルには安心の環境と設備が整っています。病院や老人福祉施設、またご自宅などでお亡くなりになられた後、様々な理由から、マンション等のご自宅でのご安置が難しい場合などにも、ぜひラステルをご利用ください。心安らかに、最期のお別れの時間をお過ごしください。

### 最後のお風呂「湯灌」



▲湯灌師が丁寧に湯を注ぎます。  
(電子湯を使っています)

### お見送りはバイオルガンの 音色に包まれて

※楽団編成▶



▶お別れ室(築造区画内)

ご葬儀の前に故人様のお身体を清め、お化粧する「湯灌(ゆかん)」。人生最後のセレモニーを飾り、ご家族の想い出を彩りながら旅立ちの準備をします(オアション)。

### 新幹線も停まる「新横浜駅」8番出口すぐ

旧横浜線に加え、東海道新幹線、市営地下鉄ブルーラインが乗り入れるターミナル。新横浜駅、ラステル新横浜は、新幹線改札にも近い北口から徒歩5分という抜群の好立地を誇ります。



▲地方からのご親戚が多くても安心です。

24時間いつでもお迎えにあがり、故人様をご安置。  
ラステルなら、専用のご面会室で心ゆくまで寄り添えます。

## 心に残るお見送りの 故人様にふさわしい

ラステル新横浜には、3階の家族葬ホ  
ールをご用意しています。



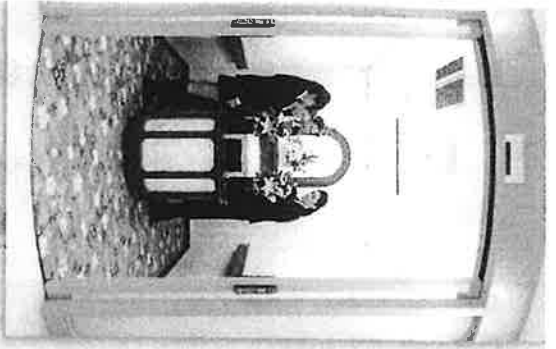
## 寛ぎの空間『ご家族

広いリビングルームで家族葬を執り行い  
できるソファセットも完備しております。  
ゆっくりとお過ごしいただけます。



▲ソファリビングルーム(2、1、0)





3F ご面会室入口 (撮影のため、ドアが開かれています)



◀お別れ室 (後述広場隣り)



すぐ  
ハイン  
：横浜  
：駅の

▲何方からのご到着が多くても安心です。

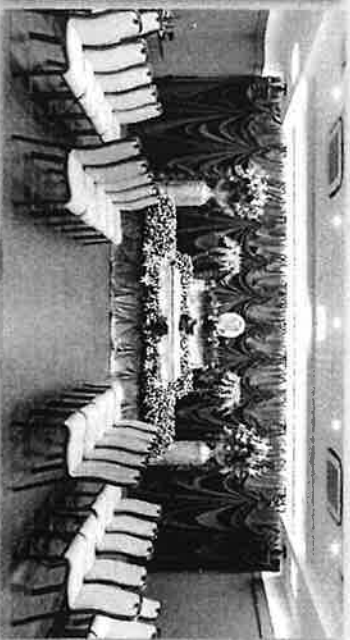
24時間いつでもお迎えにあがり、故人様をご安置。  
ラズテルなら、専用のご面会室で心ゆくまで寄り添えます。

心に残るお見送りのために  
故人様にあふさわしい式場をお選びいただけます

ラズテル新横浜には、3階の家族葬ホール、地下1階の式場「集(つどい)」、ご家族貸切でご利用いただけるファミリールームがございます。ご参列者様の人数、ご葬儀の形式によりお選びください。



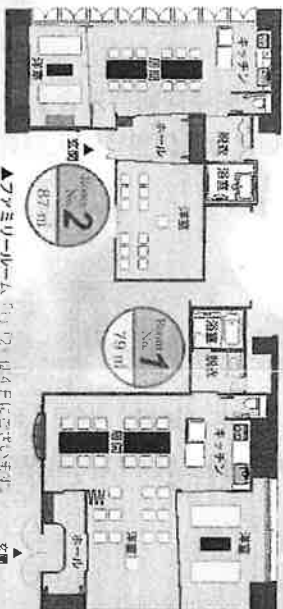
▲3F 家族葬ホール



▲B1F 式場「集」

寛ぎの空間『ご家族専用ルーム』でリビング葬家族葬を

広いリビングルームで家族葬を執り行います。バスルームや仮眠のできるソファベッドも完備しておりますので、24時間ご家族だけでゆっくりとお過ごしいただけます。



▲ファミリールームの1、2、3、4Fはございます。

